

最上川200kmを歩く 小学校探検リレー

5月7日にスタートした『最上川200kmを歩く』。
最上川の源流から河口までを11週にわたり11の小学校の子供たちがリレーします。
第3週と、第4週は、長井出張所の管理区間を歩きました。

第 3 週

5月21日、長井市立豊田小学校の5,6年生17人が
白川合流点(長井市)から
睦橋(白鷹町)の区間を担当しました。
まずはバスで移動し、完成したばかりの長井ダムを見学。
昼には朝から降り続けていた雨もやみ、
さくら大橋から長井橋左岸市民運動公園まで
自然と親しみながら元気いっぱい歩きました。



洪水時の水位を示す鉄柱。



最上川沿いのフットパス(歩くことを楽しむための道)。
小川を飛び石で渡ることができます。



薬品が入っているチューブに
川の水を入れて水質検査をしました。

第 4 週

5月28日、白鷹町立小蚕桑小学校の5,6年生20人が
睦橋(白鷹町)から
^{いもかわ}新五百川橋(朝日町)の区間を担当しました。
午前中は睦橋から荒砥橋までの堤防沿いを
水防施設や堤防の役割について説明を受けながら散歩。
午後は菖蒲水位観測所からつづて石まで
フットパスを歩きました。



国土交通省の緊急資材倉庫。
洪水に備え土のうなどの資材を備蓄しています。



川沿いを歩く事ができるフットパスの木道。
最上川の流れを間近で感じました。



巨大な岩、つづて石にまつわる伝説や、
最上川の舟運の歴史を学びました。